

CASBEE-建築(新築)2016年版
令和6年度市営米田南住宅新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.6	
Q1 室内環境					0.40		-	2.8	
1 音環境				3.0	0.15	3.0	1.00	3.0	
1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音		—		3.0	0.50	3.0	0.50		
1 開口部遮音性能		—		3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能		—		3.0	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		3.0	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音		—		3.0	-	3.0	-		
2 温熱環境				1.8	0.35	2.1	1.00	2.1	
2.1 室温制御		—		1.7	0.50	2.5	0.50		
1 室温		—		1.0	0.63	1.0	0.63		
2 外皮性能		住宅部分:外皮UA値=0.46(平均)		3.0	0.38	5.0	0.38		
3 ゾーン別制御性		—		3.0	-	-	-		
2.2 湿度制御		—		2.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式		—		2.0	0.30	1.0	0.30		
3 光・視環境				2.8	0.25	3.4	1.00		3.3
3.1 昼光利用		—		3.6	0.30	3.4	0.30		
1 昼光率		【共用部昼光率】2.1% 【住居昼光率】2.9%		4.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口		—		-	-	1.0	0.30		
3 昼光利用設備		—		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		—		2.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光制御		住居:カーテンと庇(バルコニー)の2種類による制御		2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度		—		3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御		—		3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				3.2	0.25	3.1	1.00		3.1
4.1 発生源対策		—		4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		建物全体・共用部、住居:内装材はF☆☆☆☆使用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気		—		2.0	0.40	1.6	0.38		
1 換気量		—		3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		—		3.0	-	1.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		—		1.0	0.50	1.0	0.33		
4.3 運用管理		—		-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		—		3.0	-	-	-		
2 喫煙の制御		—		3.0	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.8	
1 機能性				2.2	0.40	2.8	1.00	2.7	
1.1 機能性・使いやすさ		—		3.0	0.40	3.0	0.60		
1 広さ・収納性		—		3.0	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		—		3.0	-	3.0	1.00		
3 バリアフリー計画		—		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		—		1.0	0.30	2.5	0.40		
1 広さ感・景観		天井高2.5m以上		3.0	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		—		2.0	-	-	-		
3 内装計画		—		1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理		—		2.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		—		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		—		2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振		—		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		—		3.1	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		共用部、住居:ビニルクロス20年		4.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要用途3種にBを使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		—		2.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		—		2.0	0.20	-	-		
3 電気設備		—		1.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		—		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		—		3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.2	0.30	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			-	-	2.6	0.50	
1	階高のゆとり	-	3.0	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	-	3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	さや管ヘッダーシステム採用により修繕・更新が安易	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			住宅部分:UA値=0.46(平均)	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用			-	3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化			住宅部分:BEI 0.79	5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用			-	3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			-	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマ+超節水型大便秘器採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用	-	3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1	材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が容易に分別可能	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避	-	3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	1.00	-	-	
3	冷媒	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率91%	3.3	0.33	-	3.3
2 地域環境への配慮			-	2.5	0.33	-	2.5
2.1	大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止	-	3.0	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2	振動	-	-	-	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制	-	3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制	-	4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	適切な照度を確保しつつ、周囲へ漏れの少ない器具を採用	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

令和6年度市営米田南住宅新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		○	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	3.0		-	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	2.0		-	-	-	-	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0		-	3.0	-	2.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	5.0		-	-	-	3.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) 0.6

U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 1.0 外壁 0.8 床 0.9

住戸部分 窓システムU値 4.2 外皮UA値 0.5 η AC 1.7 η AH 1.0

屋光率 2.9%

自然換気有効開口面積率 0.0%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0㎡ /人 病床 .0㎡ /床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.5 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース % レストスペース %

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 2.8 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 57.3%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 16% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 85% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 20% 舗装面積率 59%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m - 断熱等性能等級 等級4を超える 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 - 住宅 0.79 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 160% 隣棟間隔指標R_w 1.18

地表面対策面積率 20.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積S_b 985㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W_s 72.593 m 基準高さH_b 8.4427 m

緑地 673㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡